

AICHI  
PREFECTURAL  
MUSEUM  
OF  
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会 会報 第44号

# 空中回廊

フィンランド独立100周年記念「フィンランド・デザイン展」

会員のひろば：友の会講座／アートカフェvol.2／日帰り懇親バスツアー

次回展覧会予告：大エルミタージュ美術館展

愛知県美術館コレクションから[フェルナン・レジェ]



フェルナン・レジェ《緑の背景のコンポジション(葉のあるコンポジション)》(部分)1931年

# FINNISH

フィンランド独立100周年記念

## フィンランド・デザイン展

2017年4月7日(金)▶5月28日(日)



生地(ウニッコ)  
マイヤ・インラ/1964年/マリメッコ社  
個人蔵  
© Marimekko Corporation

世界に愛されるデザインと、  
自然と共生する人々の暮らしを知る。

フィンランド・デザインといえば、可愛くて洗練された食器類、大胆な図柄のファブリック、斬新だけれどあたたかみのある椅子。多くの人が思い浮かべられるイメージが存在しますが、それらを生み出す人々の生活や考え方、歴史はご存知ですか？

国の南にある首都ヘルシンキは比較的気候が穏やかで、1月でも札幌と同じくらいの気温です。しかし北極圏のラップランドは1年のうちおよそ7か月の間積雪があり、気温がマイナス10度を下回る極寒期が長く続きます。

フィンランドに住む人々は、そんな厳しい環境下の生活の中から楽しみを見出し、自然と共に暮らしてきました。フィンランドの「巨匠」と呼ばれるデザイナーも「自然と人間との調和」を重視し、永く愛され使われるデザイン作品を生みだしてきたのです。

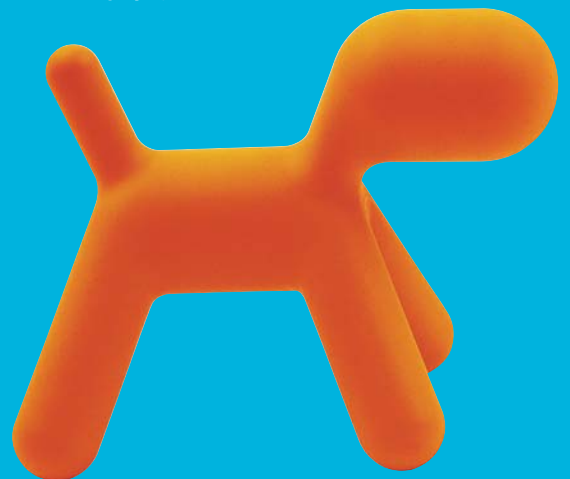
フィンランド独立100周年を記念し、独立以前の装飾芸術から現在までのフィンランド・デザインを一望できる展覧会がやってきます。この機会に、フィンランド・デザインを学び、より身近なものにしませんか？

知らなかったものから、  
憧れのデザインまで、全貌を見る。

紹介する作品は、19世紀末のものから現在のものまで。対象は食器や家具はもちろん、服飾やオブジェも含め広範囲にわたります。

例えば単純化された形といった一般に思い浮かべるフィンランド・デザインの特徴は、木々や波形など身近な自然や環境から

作りだされてきました。日常生活で実際に使われている作品を中心に展示していますので、人々の暮らしに思いを馳せながら会場を歩いてみてください。どこかで使ったことのある食器や、気になっていたワンピース、憧れていた家具と出会えるかもしれませんよ。



椅子(Puppy)  
エーロ・アールニオ/2003年  
個人蔵  
© Eero Aarnio

# DESIGN

## 汎用性が高いのに手に馴染む、 美しいプロダクトデザインの世界。

展覧会の会場は6つのセクションに分かれており、『ARABIA』(アラビア)、『iittala』(イッタラ)、『Artek』(アルテック)、『Marimekko』(マリメッコ)といったフィンランドを代表する企業やブランドの果たしてきた役割、各時代の優れたデザイナーとその特徴がわかるようになっています。

例えば、一枚のお皿に対し、ある時はサラダ、ある時は焼き魚、またある時は果物と、今ではいろいろな料理を盛って使いますよね。こういう「何にでも使える食器」を意識的に広めたのが、カイ・フランクがデザインしたアラビアのテーブルウェアなのです。

企業ブランドやデザイナーごとにまとめた数の作品を観ていただける、貴重な展覧会です。



テーブルウェア(Kiltaシリーズ)  
カイ・フランク/1953年/アラビア  
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵  
© Designmuseum

当展覧会担当  
中村史子学芸員からの

### Message!



フィンランドのデザインは、使う人の生活をより良くしようという人間主義(ヒューマンイズム)に基づくと言われています。これは福祉国家としてのフィンランドとも相通じる点があります。本展でも、様々なお客様が快適に楽しんでいただけるよう工夫をしています。



オブジェ「バードリーヒポッコ(フクロウ)」  
オイバ・トイッカ/1997年/イッタラ  
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵  
© Designmuseum  
Photo:Chikako Harada

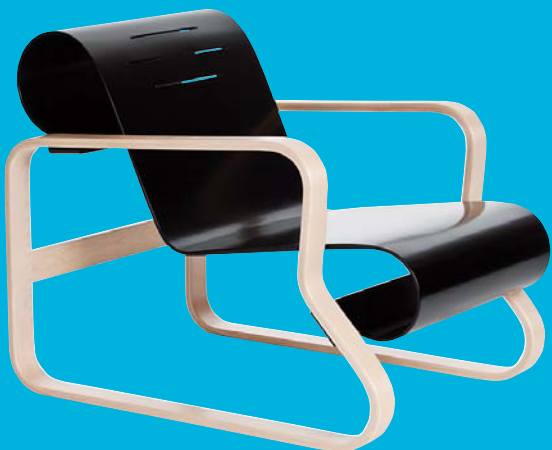


椅子(Ball Chair)  
エーロ・アールニオ/1963年  
ナゼロ蔵  
© Eero Aarnio

## 見るだけじゃない、 実際に触れて、感じてみる。

無駄なく、斬新な形なのにぬくもりも感じとれる、どんな空間で使っても馴染む…。これが北欧の椅子のイメージでしょうか。アルヴァ・アアルトの名作、《スツール60》や《41 アームチェアパイミオ》さらにエーロ・アールニオの《ボールチェア》や《パ

ピー》まで本展には登場します。会場では、このような名作椅子やフィンランドで実際に使われている椅子の一部に座ることができます。フィンランド・デザインの心地よさ、あたたかさを体感してみてください。



椅子(41 アームチェア パイミオ)  
アルヴァ・アアルト/1931-1932年/アルテック  
個人蔵  
© Artek

この記事は、当展覧会ご担当の中村史子学芸員にご協力いただき作成しました。

# 友の会講座 木村定三コレクションの「陶磁資料を中心として」 全容を探る分野別調査研究

講師：仲野泰裕氏 陶磁文化研究者・元愛知県陶磁美術館副館長 **開催** 2016年11月12日(土)



講義をされる仲野先生



《信楽肩衝茶入 銘「無一物」》桃山時代(16世紀末)



《緑釉日本地図角鉢》江戸時代(18世紀後半)

木村コレクション全体についてのお話は、友の会でも初めてで興味津々でした。多彩な内容に改めて目を見張ります。

木村氏愛蔵の3千件以上の品々が2003年頃より愛知県美術館に寄贈され、その一部は常設展示室で目にすることができます。それらは県美の学芸員を始め、仲野先生のような各分野の専門家により調査研究されていますが、まだ数年の調査が必要だそうです。

木村コレクションを貫く軸となっている物は“厳粛感”と“法悦感”だと伺いました。その例として、熊谷守一の2枚の蝦蟇の絵を見て納得しました。(TA)

## アートカフェvol.2

**開催** 2016年11月20日(日)

# 「APMoA Project, ARCH 出展作家 新野洋氏を囲んで」



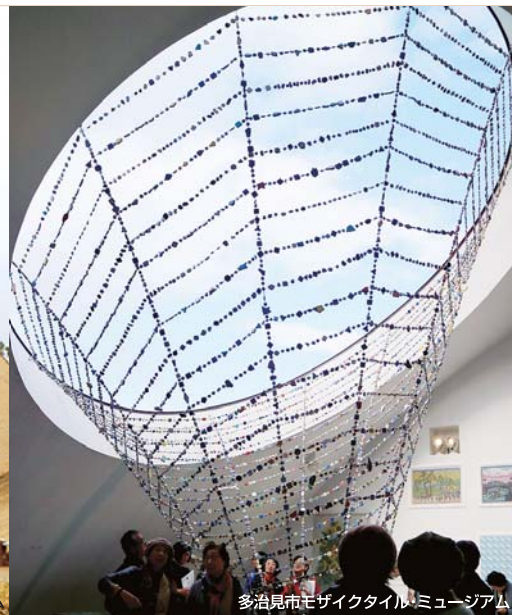
### ■ タイムスケジュール

- 13:30 アーティストトーク  
[作家本人によるギャラリートーク]  
(美術館主催)  
アートスペースでのトーク  
ギャラリーにて作品を前にした解説と  
質疑応答
- 16:00 アートカフェVol.2  
珈琲・紅茶を楽しみながら新野さんのお話を聞く  
ギャラリーにて解説
- 17:00 終了

## 造形作家 新野洋さんを囲んでのフリートーク

今回で2回目となるアートカフェは、アーティストを囲んで気軽に話せるようにと企画されたイベントです。初回に残った課題が「気軽に会話する」ことだったため今回は、アートスペースで珈琲・紅茶と菓子をいただきながらフリートークができるよう、セッティングしました。おかげで、会員からは「ゆるい」質問や感想が飛び出て、普段は寡黙と伺っていた新野さんからも沢山のエピソードをご披露いただけました。

これが完成形ではなく、今後もいろいろなスタイルでの開催を試みるつもりです。



第2回!

多治見市モザイクタイル・ミュージアム

多治見市モザイクタイル・ミュージアム

# 友の会・岐阜県方面 日帰り懇親バスツアー

2016年

12月6日(火)

毎回ご好評頂き、多くの会員の方にご参加頂いているバスツアー!今回は岐阜方面です。車窓から見える紅葉を楽しみながら、食や芸術も堪能した様子を写真でお届けします。

START!

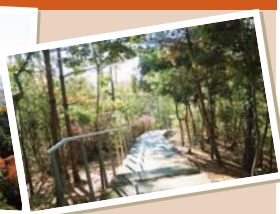
いってきまーす!



華やかな  
コース料理で  
話も盛り上がる!



自由散策。展望台まで足をのびた人も



9:00 バス2台に分かれて、いざ出発!



軽めの  
ワインを  
愉しむ方も



12:30 館内のレストランで昼食



車窓から見える紅葉にテンションアップ!



14:00 熊谷守一つけち記念館へ移動  
2号車では高橋館長のフリートーク  
を楽しみながら

アートから  
美術館の裏話まで  
話題は様々



10:15 多治見市モザイクタイル・ミュージアム着。恒例の集合写真後、ミュージアムを散策



色とりどりの  
タイルが綺麗!



11:40 高橋館長(前愛知県美術館副館長)の  
レクチャーとギャラリートーク

紅葉が美しい  
山々の中の  
栈橋を  
渡っていきます



15:15 熊谷守一つけち記念館着

2グループに  
分かれたので  
じっくり聞けました



市川瑛子学芸員が熱のこもった解説!

帰り道は1号車にて  
高橋館長の  
フリートーク!



各務寛治館長にもお会いしました  
とっても  
ささやかな方です



11:30 岐阜県現代陶芸美術館到着



16:10 熊谷守一つけち記念館発

お疲れ様  
でした!

GOAL!

# 大エルミタージュ美術館展



ルカス・クラナハ《林檎の木の下の聖母子》1530年頃 油彩・カンヴァス  
© The State Hermitage Museum, St. Petersburg, 2017-18



フランシスコ・デ・スルバラン《聖母マリアの少女時代》1660年頃 油彩・カンヴァス  
© The State Hermitage Museum, St. Petersburg, 2017-18

次回  
予告

## 大エルミタージュ美術館展

オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち

開催 2017年7月1日(土) - 9月18日(月・祝)

ロシアが世界に誇るエルミタージュ美術館のコレクションから「オールドマスター」絵画85点をご紹介します。一大展覧会です！

かつての帝政ロシアの首都サンクトペテルブルクに立つエルミタージュ美術館の礎となったのは、女帝エカテリーナ2世が1764年にベルリンの画商から手に入れた317点の絵画のコレクションでした。その後も歴代皇帝たちがありとあらゆる美術品を収集し続け、エルミタージュ美術館は世界屈指の規模を誇る美術館となりました。「世界三大美術館の一つ」とも呼ばれる所以です。

本展覧会に並ぶのは、1万7千点にも及ぶエルミタージュ美術館の絵画コレクションの中でも特に充実している、16世紀のルネサンスから17・18世紀のバロック、そしてロココまでの、「オールドマスター」たちの絵画です。「昔日の巨匠」を意味するこの言葉は、まさしく長い時の試練を耐えて西洋美術の歴史において揺るぎない地位と評価を得た古典的な巨匠たちを指しています。

女帝エカテリーナの時代から精力的に収集されてきたオールドマスターの作品は、言わばエルミタージュ・コレクションの「本丸」とでも呼ぶべきもの。エルミタージュ美術館のコレクションを紹介する展覧会は何度か開かれてきましたが、オールドマスターの作品群に切り込んでいく点で、本展は非常に画期的なものとなっています。

今回は、ティツィアーノやレンブラント、ルーベンスといったオールドマスターたちの作品を、イタリア、オランダ、フランドル、スペイン、フランス、そしてドイツ、イギリスという国・地域ごとの章に分けて展示します。また、あの女帝エカテリーナが直々に取得した作品や、息子から贈られた「聖母子」を描いた作品など、作品の背後にある興味深いエピソードなどもあわせてご紹介します。

出品作品85点はすべて絵画で巨匠たちの力が揃う本展覧会は、連綿と続くヨーロッパ絵画の醍醐味を堪能できる貴重な機会となるでしょう。(学芸員 塩津青夏)

オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち

フェルナン・レジェ

# 《緑の背景のコンポジション (葉のあるコンポジション)》

幾何学的形態と有機的形態、  
自然界のモチーフが同居する  
独特なニュートラルな世界。



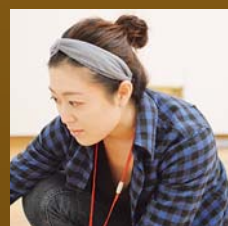
フェルナン・レジェ  
《緑の背景のコンポジション  
(葉のあるコンポジション)》  
1931年 油彩、画布 92.0×73.0cm

20世紀を代表するフランス人芸術家フェルナン・レジェ(1881-1955)は、1910年頃にキュビズム運動に加わり、ピカソ、ブラックに続く重要な画家の一人となりました。第一次世界大戦後は、機械文明のダイナミズムや機能美に魅せられ、機械や工場、都市とそこに生きる人々を色彩豊かに描きました。1920年にはピュリスム(純粹主義)を提唱する建築家ル・コルビュジエと知り合い、「アール・デコ」展(1925)などで壁画制作にも取り組みます。また映画や写真にも興味をもち、とりわけ実験映画『バレエ・メカニック』(1923-24)の制作は、クローズアップされた身体や日常から切り離された事物(オブジェ)の断片に、純粹に造形的な価値を見出す契機となりました。

1920年代後半から30年代前半にかけて、レジェはこのような様々な「オブジェ」を組み合わせた新たな絵画表現を模索します。《緑の背景のコンポジション(葉のあるコンポジション)》は、この時期に描かれた意欲的な作品の一つです。ここでは、それまでレジェの絵画に特徴的だった幾何学的な画面構成は見られず、まるで様々なモチーフが空中を浮遊しているかのようです。矩形、三角形、円、直線といった幾何学的形態と、うねる曲線やアメー

バのような不定形のオブジェを含む有機的形態、そして葉や石のような自然のモチーフまでもが一つの画面に同居しています。レジェ自身が「自分の用いるオブジェに対して確信を持つために、それらを宙吊りの状態で描いた」と言うように、一つ一つの「オブジェ」の造形性や存在感を確かめ、強調するために、彼は深みのないニュートラルな空間にそれぞれの要素を注意深く配置しているのです。

こうした一見脈絡のない異質なモチーフの組み合わせや、「バイオモルフィック(生命形態的)」と言われる有機的なフォルムの表現に、当時パリの前衛美術界を牽引していたシュルレアリスムの影響を見出すこともできるでしょう。しかし、レジェの「オブジェ」は、シュルリアリストが信奉する夢や無意識、非合理の世界からきたものではありません。レジェは、最大限の視覚的なコントラストを生むような「オブジェ」を選択しているようです。例えば、補色関係にある赤と緑、有機的形態と無機的形態、平坦な色面とモデリングされたタッチといったあらゆるコントラストは、新鮮で刺激的な視覚効果をもたらし、画面全体に生き生きとした新しいリズムをもたらしているのです。



学芸員の横顔

久保田 有寿

-Azu Kubota-

2016年度コレクション企画「日本で洋画、どこまで洋画？」展担当。愛知県美術館での経験は私の財産です。  
ありがとうございました！



AICHI  
PREFECTURAL  
MUSEUM  
OF  
ART

# MEMBERSHIP

## 美術館から

愛知県美術館は、1992年10月30日に「フォーヴィスムと日本近代洋画」展で開館しましたので、今年はいよいよ開館25周年です。ちなみに前身の文化会館美術館は1955年2月2日に「中美展」でオープンしています。この頃の友の会会報は「窓口」という名前でしたから、見晴らしの良さそうな「空中回廊」よりも、少しお役所的な硬さを感じさせるかもしれません。

実はこの文化会館美術館、1978年7月12日からの約半年間、改修工事のために休館しておりました。オープンから20年強というのは、やはり一つの節目なのでしょう。当館も2017年11月20日から改修工事に入り、約1年半の間休館いたします。

かように記念の年というのは、25年間(あるいは62年間)の歴史の積み重ねに思いが至るものです。4月からのコレクション展は、休館に入るまでの3期にわたって、この点を意識した内容にしようとしてスタッフは準備を進めています。

(学芸員 石崎尚)

## 友の会から

ホームページからのイベント申し込みも可能になりました。新しい情報は随時更新しますので、ご確認ください。



愛知県美術館友の会

検索



[www-art.aac.pref.aichi.jp](http://www-art.aac.pref.aichi.jp)

## 編集後記

蔵出しの新酒と若手作家には共通なものがあるように思う。新酒が本来の酒の味を呼び戻してくれるように、アートカフェの作家は美術の楽しみを思い出させてくれる。

どちらも、粗削りだが素直、がいい。(TK)

## 友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は下記までお問い合わせください。入会のご案内パンフレットやホームページでも詳しくご紹介しております。ぜひご覧ください。

▶愛知県美術館10階受付 ▶友の会事務局

- 編集 松下智子 / 大矢真美代 / 富永晃一 / 喜田泉 / 小林克敏 / 本田良子 / 森健次
- 協力 愛知県美術館
- 発行 2017年3月

## 第44号 友の会活動紹介

### <2016>

- 10月 定例活動のみ
- 11月 友の会講座(木村コレクション)★  
アートカフェvol.2★  
全館コレクション展特別鑑賞会
- 12月 日帰りバスツアー  
(岐阜県現代陶芸美術館ほか)★

★…中面でご紹介しています

### <2017>

- 1月 友の会講座(西洋美術)  
ゴッホとゴーギャン展特別鑑賞会
- 2月 友の会講座(日本美術)
- 3月 アートカフェvol.3(予定)  
友の会講座(日本美術)



### 全館コレクション展特別鑑賞会

平瀬学芸員の解説は、テンポも良くとても楽しかった。特に「新作滑稽落し話」に出てくる「高橋由一先生の油絵は見事です。それは要ガス(用具和す)」という駄洒落小話を聞いた時は笑いました。充実した鑑賞会でした。(会員T様)

### ゴッホとゴーギャン展内覧会



ホールを埋め尽くした参加者から展覧会への熱気が感じられました。島敦彦館長は開会挨拶で、自分の高校時代の美術科資料集を披露されました。その表紙が今回展示されるゴッホの「収穫」であること、中には「ゴッホとゴーギャン」というコラムが書かれていることなどを紹介し、いかに今回の展覧会が貴重なものであるかを示してくださいました。(KK)

## 定例活動

所蔵品管理	モニター	発送	受付 <small>【イベント】</small>	広報	ホームページ	理事会
21回	1回	3回	6回	5回	随時更新	5回

## これからの展覧会のご案内

### フィンランド独立100周年記念 **フィンランド・デザイン展**

開催 2017年4月7日(金) - 5月28日(日)

### 大エルミタージュ美術館展 オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち

開催 2017年7月1日(土) - 9月18日(月・祝)

### 長沢芦雪展

開催 2017年10月6日(金) - 11月19日(日)

## 愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市中区東桜一丁目13-2  
愛知県美術館内(愛知芸術文化センター10階)

tel. **052-971-5511** (代)  
(火・木・土10:00~16:00)

fax. **052-971-5617**

愛知県美術館友の会

検索



✉ [tomonokai@aac.pref.aichi.jp](mailto:tomonokai@aac.pref.aichi.jp)

愛知県美術館ホームページ

[www-art.aac.pref.aichi.jp](http://www-art.aac.pref.aichi.jp)

twitter

@apmoafriends